



現地説明会で参加者の皆様からお寄せいただいた

ご質問にお答えします

Q1 誰が埋葬されていたのですか

この古墳は景行天皇の子である大碓皇子（ヤマトタケルの兄）の墓と伝えられてきました。しかし、全国の多くの古墳と同じように被葬者を特定することは困難で、誰の墓であるかを示す遺物は見つかっていません。おまけに、墓壇には三人が同時埋葬されています。岐阜県最大の前方後円墳で、畿内以外の地域では少ない三段築成・埴輪・葺石・周濠の外部装飾を完備した中期古墳であることや副葬品などから、畿内勢力の中心であったヤマト政権と深いかかわりを持つ、千六百年ほど前にこのあたりの地域政権を形作っていた首長の墓であると考えられています。

大碓皇子（おおすのおおじ）
墓壇（ほこう 墓穴のこ）
前方後円墳（ぜんぽうこうえんふん）
円丘と方丘が接した形の墳丘の墓（前方後方墳）（ぜんぽうこうほうふん）
方丘と方丘が接した形の墳丘の墓（三段築成）（さんだんちくせい）
墳丘が三段に築かれていること
葺石（ふきいし） 古墳の盛土の上に葺く石）
埴輪（はにわ 素焼きの焼き物）
周濠（しゅうこう 古墳を囲む堀）
副葬品（ふくそうひん 棺に納められた鏡、刀剣、玉類など）

Q2 どうやってつくられたのですか

重機がなく鉄が貴重品であった時代に大規模な土木工事を行うことは大変な苦労があったと想像できます。古墳づくりの高度な技術を持った頭脳集団と地域の首長たちが協力し、組織的に次のような手順で作られたと考えられます。
① 平らにした地面に杭を打ちまっすぐな棒と長い縄を使って平面図を書く。
② 平面図に沿って濠を掘り下げ、掘った土や他から運んできた土をつき固め墳丘に積み上げる。
③ 墳丘ができあがる頃に木棺を運び上げ埋葬する。
④ 墳丘に葺石をはり埴輪をすえる。

古代の建築技術は想像以上に高度なものであり、阪神淡路大震災の震源地近くに保存整備された五色塚古墳では地震で崩れた葺石は後世に整備したところだけであったと聞いています。

Q3 全国の古墳と比べて違うところは

同じ墓壇（はかあな）に堅穴式石室内木棺・粘土槨内木棺・木棺直葬と三人が異なる形で葬られています。後円部が前方部より大きい三段築成の前方後円墳で埴輪が三重に並べられていました。多様な埴輪（円筒埴輪、朝顔形埴輪、楕円筒埴輪、家・鞆・盾・蓋・甲冑などの形象埴輪）の破片や多量の玉類（勾玉、管玉、棗玉、臼玉、算盤玉、ガラス玉）が

出土し、葬送の様子がわかりました。宅地造成のため切り取られた前方部の部分からは、古墳築造の技術を窺い知ることのできる盛土の様子が観察できました。

全長百五十米という墳丘の大きさは岐阜県で最大ですが、全国には百六十米以上の墳丘を持つ巨大古墳は五十六基も数えられています。

Q4 周辺にある古墳との関係は

一九八七年に大垣市歴史民俗資料館が発行した「大垣の古墳」には上石津町を除く大垣市内には二八六基の古墳があったことが記録されていますが、今日では花岡山古墳をはじめ、そのほとんどが滅失しています。その中で、矢道町の長塚古墳は前期の前方後円墳で、後円部を失っていますが、多くの鏡や七十一個もの石釧（石のブレスレット）が出土した副葬品の宝庫として知られています。また、青臺町の粉糠山古墳は全国で十指に入る全長百米の前方後方墳です。昼飯大塚古墳と同時期に一キロメートルも離れていない場所に違う墳形を採用した事情は不明ですが興味をそそられることではあります。そして、昼飯三区の児童公園には石室の天井石が露出した車塚古墳があります。これは墳形はわかりませんが、二十米以上の大きな古墳であったと考えられます。